

平成 16 ( 2004 ) 年度

## 第 1 回知床エコツアーリズム推進協議会

### 議事概要

## **第1回知床エコツーリズム推進協議会 議事概要**

平成16年(2004年)7月13日 10:30~12:00 於:ウトロ漁村センター

出席者:別紙出席者名簿を参照

【1】挨拶

【2】出席者紹介

【3】会長選出

【4】議事

- 1) 知床エコツーリズム推進モデル事業の経過
- 2) エコツーリズムに関する概論
- 3) 設置要項案について
- 4) 事業計画案について
- 5) 知床ガイド協議会について
- 6) その他、次回予定など

【1】挨拶

地元自治体を代表して斜里町総務環境部長

総務環境部長(斜里町):

お忙しいところ、ありがとうございます。

このたび、環境省のエコツーリズム推進モデル事業として知床が選定されました。

斜里町・羅臼町との共同提案によって、応募をしました。この事業は、3ヵ年の事業として、進めていく。

世界遺産をめざした、様々な取り組み、課題などあるが、この協議会も大きな役割を担っている。この推進協議会の発足を契機に、皆様方のお知恵を拝借したい。

環境省より東北北海道地区自然保護事務所長

東北北海道地区自然保護事務所長(環境省):

日本にふさわしいエコツーリズムを進めていこうということで、環境省でも取り組んできた。エコツーリズムは、ただ通り過ぎただけでは見えない自然の奥深いところを見せてくれる。

全国でモデル事業の公募をし、53件ほどの応募があり、その中から、13件選ばれた。知床の先進的な取り組みが評価された。

来週、世界遺産のIUCNの調査員が訪れる。

今年6月には、地元のガイドの方々が立ち上がってガイド協議会を設置した。

このエコツーリズム推進協議会と平行して、利用の適正化のための会議、世界遺産候補地科学委員会などなど知床では、多くの事業が立ち上がっている。これらがそれぞれに連携しながら、効果的に動いていけば、と思っている。

知床モデルとして、国内だけではなく、世界にも発信して行ってほしい。環境省も関係省庁と力を合わせて、積極的に支援する。

## 【2】出席者紹介

自己紹介（別紙参加者名簿参照）

## 【3】会長選出

両町観光協会より選出することになった。

会長：上野洋司（知床斜里町観光協会会長）

副会長：阿保薫（羅臼町観光協会会長）

で、承認。この後の進行は、会長。

## 【4】議 事

### 1）知床エコツーリズム推進モデル事業の経過

事務局（斜里町）：資料

環境省により昨年度からスタートした事業。本年度、知床が応募して、選定された。

環境省では、エコツーリズムモデル事業以外で、エコツーリズム憲章や総覧の整理、推進マニュアルなどの枠組みがある。これらはかなり関連しているので、全体的に進めていく必要がある。知床財団を事務局に3年間の予定。いかにこの結果を地元を活かさせていけるかが重要となってくる。

### 2）エコツーリズムに関する概論

事務局（知床財団）：資料

エコツーリズム自体がまだ新しい概念。発展過程。

自然環境や歴史・文化を体験し、学ぶこと。

これまでの観光と違い、ただ観光地を回るだけでなく、そこに長く滞在し、その場所の自然環境の保全にもつながるようなもの。

今回13箇所が選定された。知床は豊かな自然、典型的なエコツーリズムが展開できる場所との位置づけ。それぞれの場所で違った形態があってよい。知床らしいエコツーリズムを目指すべき。

この推進協議会はモデル地域の推進組織としての位置づけ。エコツーリズムの成功には、地元の地域社会の積極的な参加が不可欠。

他の応募地域のリストなども資料を参照。

### 3) 設置要綱案について

事務局(知床財団): 資料

第1条、目的について説明。

第3条、事務局は斜里町、羅臼町、北海道、知床財団。

事業についての説明は、事業計画案についての説明の中で詳しく行う。

第9条について説明。アドバイザーは今後検討していく。旅行関係、実際のエコツアーリズム専門家にアドバイスをいただく予定。

### 4) 事業計画案について

事務局(知床財団): 資料

現在40名ほどのガイドが知床では活動している。マスツアーにエコツアーリズムの要素を入れることにはある程度の成果がある。今後は地域産業を生かした展開が必要。斜里羅臼だけでなく、半島基部とも連携して、展開を検討。

環境省、北海道、地元両町と知床財団が中心となって、これらの事業を展開していく。事業の中身は資料 を参照。3年間の事業。

#### 環境省分

知床型エコツアーリズムのあり方検討 推進協議会  
ガイド技術講習会  
先進地視察  
地域産業と連携したエコツアーリズムの展開

#### 北海道分

今後、内容を整理していく。

#### 斜里・羅臼町分

滞在型のエコツアーの企画・施行  
海外からの旅行者の誘致推進事業 情報提供、HP、パンフレット

#### 資料 ワーキンググループ(WG)案

具体的な内容を検討するために、2つのWGを設置。

- 1、地域産業WG 農業、漁業関係者など
- 2、滞在型モデルWG 観光関係、宿泊施設など

推進協議会の構成団体の中からワーキング団体を選出した。また、ワーキング団体の中から実際に行動することのできるワーキングメンバーを推薦してもらい、具体的な案を練

っていく。さらに、必要に応じて関連団体や推進協議会の構成員以外にも参加を求める。

資料 今後の計画について

今日から全体事業スタート。

7月中に WG メンバー選定。事業への取り組み開始。

全体会議は、次回は秋から冬にかけて開催する。

滞在型モデル事業については、早く進めなくてはいけない。秋には企画完成、冬には実際に募集を始められるように。来年度も引き続き企画しモデルツアーを試行する。19年度以降は試行ではなく実際に展開。

地域産業は秋以降 11 月くらいからメンバーの方を集めて話し合いを進める。

会長：

事業の大枠は、大きく 3 点。

3 年間かけて、ガイドラインのようなものをつくる。

地場産業と連携したエコツーリズムを形づくる。

ガイドの講習会による技術向上を図る。

3 年後には知床ならではのエコツーリズム像をはっきりさせる。

質疑

会長：

事務局では、ワーキンググループを立ち上げて、具体的なことをやっていくということのようだ。事業を走らせながら、色々と考えていくということでもよろしいか。

資料 の計画案まで、了承ということでもよろしいか。

一同：

異議なし。

事務局（知床財団）：

それぞれの団体から、7 月の 20 日までにワーキングメンバーを推薦していただきたい。

滞在型 WG は、7 月下旬～8 月上旬には始めていきたい。

会長：

カタカナ語が多いので、なるべく日本語に。

事務局（斜里町）：

事務局もこの組織も斜里町・羅臼町双方が入ったものになっていて、今までにない組織体制で事業を行う。実際の現場では、斜里・羅臼の枠組みを越えて、柔軟に取り組んでいくということとしたい。また、この事業で羅臼側にも事務局スタッフが配置される。

会長：

環境省から、参考資料 の説明をお願いします。

（環境省）：

国立公園の利用の適正化検討会議では、14年度以降は利用のルールを作るということで動いている。半島の先端部分については基本計画としてまとめた。今後、他の地域、また公園全体の利用のルールを16年度に検討していきたい。この会議もこれらの動きと連携を図りながら、ルールなどについても考える上での参考としたい。

他にも、科学委員会・世界自然遺産候補地域連絡会議などが、平行して行なわれていて、それぞれに連携を図りながら動いている。

会長：

自然の保全を中心にすえた、ツーリズムと利用のルール作りということだった。

このほかに、世界自然遺産のからみで管理計画というものも具体的になってきている。

5) 知床ガイド協議会について

（知床ガイド協議会）：参考資料 - 1, 2

4月の21日に40名ほどのガイドがあつまって、自然の保全を考えながらお客さんの案内をしていこうと、話し合っている。斜里町・羅臼町のガイドが集まって一体となっていこうというもの。

ガイド協議会は、まだ、始まったばかり。今後は、もっと多く他の方々にも入ってもらいたいと思っているのでぜひご参加いただきたい。

会長：

協議会に入るための資格は何かあるのか？

（知床ガイド協議会）：

厳密なものではないが、基本的には地元のガイド。

副会長：

協議会に参加しているガイドの証明書のようなものは考えているのか。

(知床ガイド協議会):

将来的には、考えられる。

6) その他、次回予定など

事務局(知床財団):

このメンバー全員で集まる推進協議会は、次回は12月ごろ。

WGについては、個別にご案内する。日程については、追って連絡。

事務局(斜里町):

この推進協議会とは直接関係ない話だが、知床五湖について、7月18日をめどに部分的に閉鎖解除を検討する。

EAという問題のヒグマの目撃が、確実なものはこの一ヶ月ない。

当面の閉鎖解除は、入口から第1湖までの往復。監視員と電気牧柵を配置する。

時間は、8:30から17:00で考えている。

今後の方針は、関係機関で協議していく。

(北海道ウタリ協会羅臼支部):

環境省に、シカによる樹木の食害をどうして行くのか、聞きたい。

(環境省):

先週立ち上がった科学委員会の中で、緊急の課題としてエゾシカの対策を検討するWGが立ち上がっている。同時に管理計画の中にもものっている。シカの食害がどの程度なのか、科学的なデータに基づく対応をしていく。林野庁でも対策事業をやっているので、補足を。

(林野庁)

知床半島の森林はこのままの状態と保存していくべきと考えている。シカの問題は環境省とも連携して考えていく。

(北海道ウタリ協会羅臼支部):

このまま放っておくと何千本単位で木が死んでいっているのだから、早く手を打ってもらえないといけない。山があればいいんだけれども、どれだけ環境省が知っているのか、を聞きたかった。

(環境省):

そういった地域の方々の意見をこれからも聞いて、取り組んでいきたい。

会長：

シカやクマについては、道庁も関係しているが、道庁のほうはどうか。

(北海道)：

ヒグマについては「問題グマ」を作らないことが必要。止むを得ない場合にのみ「問題グマ」を排除していく、という方向で考えている。

世界自然遺産科学委員会のエゾシカ WG には、道庁も入っているので一緒に検討していく。

(北海道)：

20日からIUCNの調査が入るので、地元としての対応をよろしくお願いしたい。

事務局(知床財団)：

資料の修正と事務連絡。

名簿などに間違いがあれば、事務局まで。

会長：

本日は、ご苦労様でした。



第1回知床エコツーリズム推進協議会出席者名簿

区分	構成団体・機関	代表者	会議出席者
構成団体	知床の世界自然遺産登録をめざす斜里町民会議 斜里町商工会 知床斜里町観光協会 知床温泉旅館協同組合 知床民宿協会 斜里第一漁業協同組合 ウトロ漁業協同組合 斜里町農業協同組合 斜里ハイヤー株式会社 知床遊漁船協同組合 道東観光開発株式会社 斜里バス株式会社 知床自然保護協会 斜里山岳会 知床ガイド協議会 (社)北海道ウタリ協会斜里支部 羅臼町・知床世界遺産登録推進協議会 羅臼町商工会 羅臼町観光協会 羅臼町旅館組合 羅臼漁業協同組合 羅臼遊漁船組合 羅臼町酪農振興協議会 阿寒バス株式会社 羅臼ハイヤー株式会社 羅臼山岳会 (社)北海道ウタリ協会羅臼支部	会長 土橋利文 会長 土橋利文 会長 上野洋司 組合長 上野洋司 会長 小野寺康郎 組合長 桜庭武弘 組合長 今井鐵男 組合長 濱田幸博 社長 木村秀基 代表 石岡義栄 代表取締役社長 國田充 代表取締役 川村國博 会長 石井政之 会長 遠山和雄 代表 関口均 支部長 梅沢征雄 会長 阿保薫 会長 阿部満晴 会長 阿保薫 組合長 湊謙一 組合長理事 石黒勝三郎 会長 千綾和喜 会長 荒井順一 代表取締役 山崎政夫 社長 岡野平吉 会長 中村孝也 支部長 大木篤志	会長 土橋利文 事務局長 菊池孝司 役員 喜来規幸 組合長 上野洋司 役員 桂田正二 常務理事 大川原忠士 専務 野田朝夫  理事 桧森則直 専務取締役 橋本武憲 代表取締役 川村國博 理事 謝花栄昭  代表 関口均 支部長 梅沢征雄 会長 阿保薫 事務局長 浦崎頼夫 会長 阿保薫  指導部長 白濱修二 事務局 石見公夫・副会長 内藤一幸 会長 荒井順一 常務取締役 高岡實  副会長 佐々木泰幹 支部長 大木篤志

区分	構成団体・機関	代表者	会議出席者
協議会事務局	北海道  羅臼町  斜里町   知床財団		環境生活部環境室自然環境課主幹 関直樹 環境生活部環境室自然環境課主幹 西村良信 環境生活部自然環境課 計画推進グループ主任 新井田順也 網走支庁地域政策部環境生活課長 須藤進 網走支庁地域政策部自然環境係長 長尾康 根室支庁地域政策部自然環境係長 小畑淳毅 環境課課長補佐 工藤茂樹 環境課自然保護係長 田澤道広 総務環境部長 金盛典夫 経済部長 窪田正 総務環境部環境保全課長 村田良介 自然保護係主事 村上隆広 理事長 森信也 事務局長 山中正実 普及事業係長 松田光輝 普及事業係 田中直樹 普及事業係 坂部皆子
関係行政機関	環境省東北海道地区自然保護事務所   林野庁北海道森林管理局	所長 渡辺綱男   自然遺産保全調査官 小野寺秀夫	所長 渡辺綱男 保全調整専門官 樋口悟一 羅臼自然保護官 安藤弘 羅臼自然保護官 岸秀蔵 ウトロ自然保護官 田中準 根釧東部森林管理署長 伊藤香里 網走南部森林管理署長 飯島哲夫 知床森林センター所長 西純一郎

報道・一般  
NHK  
  
UHB  
読売新聞  
HTB  
北海道新聞  
日本写真家協会  
北海道ウタリ協会

網走報道室 花崎充  
北見放送局ニュース 清水義浩  
知床通信員 桑島昇  
網走 安井  
釧路支社記者 高橋一之  
網走支局 尾崎良  
写真家 高橋譲二  
理事 小川悠治  
事務局長 佐藤